



Q

研究に関する情報の展示には、
どのようなメディアが適しているのでしょうか。

二枚貝

研究？
河川は、本来、広大な氾濫原を創り出します。氾濫原は、
ら溢れた水が浸水するエリアのことです。そこには、
の強さに応じて多様な環境が生まれるため、多様な生物
しかし、日本における氾濫原は、堤防によって狭められ
水や土砂の量が変ったため、大きく変化しました(図1)。
れに依存した多様な生物の存続が危ぶまれています。

ード
河川のワンドやたまりは、現在残っている数少ない
ます(図2)。ここでは、淡水性の二枚貝が息絶して
寿命が長く移動力が小さいことに加え、魚(タナゴ類)の
息水域の環境条件とも密接に関係することから、氾濫原
るモデルとなることが分かってきました。

、淡水性の二枚貝をモデルとして、その生息環境の
原の保全や再生に向けた手法の開発を行っています。



A

情報の性質に合わせてメディアを選ぶと、
研究状況やフィールドの変化に対応できます。

■ 背景と目的

研究機関の情報発信では、最新の研究成果等を分かりやすく対象者に伝えることが重要です。展示による情報発信の際には、分かりやすい表現の検討に加え、情報が古くならないための工夫も必要です。そこでH26年度は自然共生研究センター研究棟内のオープンスペースにおいて、研究状況等に合わせた更新を可能にするための展示メディアを検討し、展示空間を構築しました。

■ 方法

展示空間の構築にあたり、はじめに展示のねらいを設定しました。当該スペースが見学可能な空間であることを分かりやすく示す、来訪者がセンターの概要と現在の研究状況を知ることができる、実験河川見学前にその概要を知り興味を整理できるというものです。これらのねらいに基づき、展示空間を大きく3つのコーナーに分けました。

■ コーナー① 自然共生研究センターへようこそ(写真1A)

入り口から最初に見える場所に、施設の概要、目的を伝えるパネルを設置しました。

■ コーナー② 研究のキーワード(写真1B,C)

センターを進める研究課題を4つの領域(大河川・中小河川・ダム・情報発信)に分類しそれぞれにテーマカラーとアイコンを設定した上で、進行中の研究の意義をキーワードやキービジュアルと共に伝えるパネルを設置しました。各パネルには関連する映像を埋め込み、モバイル端末をかざして視聴する仕掛けを作りました。

■ コーナー③ 実験河川の今(写真1D)

センターの特徴的な施設である実験河川の略図を印刷したボードを設置しました。実験状況や季節情報を研究者が適宜付加更新することにより、来訪者はフィールド見学の前に最新の情報を把握できます。

これらの展示では、情報の性質に合わせてメディアを変え、最新の情報を反映しやすくしました(表1)。例えば更新頻度が最も高い③はホワイトボード仕様とすることにより書き換えを容易にしました。研究の進捗に応じて更新する必要がある②のパネルは、1枚単位で入れ替えができます。また埋め込まれた映像もクラウドサーバーによる管理のため変更が容易です。一方で更新頻度の小さい①は、アクリル板を用いて耐久性やデザイン性を高めました。

■ 結果と考察

本事例では研究情報を展示に反映する手法の一例が示されました。この展示では既にいくつかの更新を行い更新プロセスの技術的な確認を行いました。今後は維持管理、更新頻度、研究者の協力体制といった課題も考えられます。運営上の視点にも着目しながら研究を進めていきたいと考えています。



写真1 展示内容項目に対する代表例

表1 各展示における情報の性質と展示媒体

展示コーナー	情報の性質		展示媒体
	内容	更新頻度	
①	施設の目的	施設建築とほぼ連動	パネル (アクリル板)
②	研究目的 手法 成果	研究課題と連動	パネル (パネル紙)
③	調査・実験結果 補足情報	研究の進捗と連動	映像
③	フィールド実験予定 季節変化	自然環境と連動	カラーボード マグネット ペン

担当 / 渡辺 友美